

歩きスマホ等による事故に注意！！

～それでもあなたは、スマホを見つづけますか？～

1. 年別救急搬送人員

東京消防庁管内※1では平成23年から平成27年※2までの5年間で、歩きながら自転車に乗りながら等の携帯電話、スマートフォン等に係る事故により少なくとも172人が救急搬送されました。救急搬送された人の年別救急搬送人員では、平成27年は前年と比べて11人増加しました(図1)。

※1 東京都のうち稲城市、島しょ地区を除く地域

※2 平成27年の救急搬送人員については暫定値

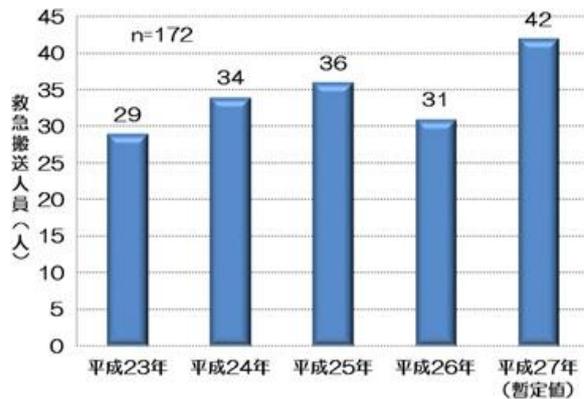


図1 年別の救急搬送人員

2. 事故種別ごとの救急搬送人員

事故種別ごとの救急搬送人員では、「ぶつかる」が80人と最も多く、全体の約47%を占めており、次いで「ころぶ」が48人、「落ちる」が39人となっています。その他では、階段や段差で足を捻る事故がありました。(図2)。

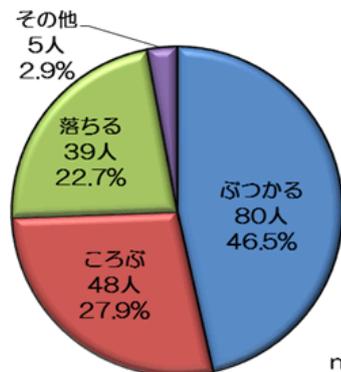


図2 事故種別ごとの救急搬送人員(平成23年～27年)

3. 場所別の救急搬送人員

場所別の救急搬送人員では、「道路・交通施設」が139人と最も多く全体の8割以上を占めており(図3)、その中でも「駅」での発生が39人となっていました。

また、一歩間違えば重大事故につながるおそれのある駅ホームから線路上に転落する事故により、平成23年に3人、平成24年に1人、平成25年に4人、平成27年に5人が救急搬送されています。

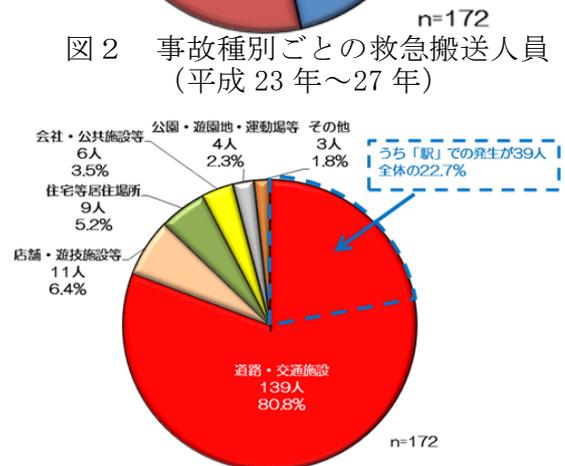


図3 場所別の救急搬送人員(平成23年～27年)

3. 発生時の動作別の救急搬送人員

発生時の動作別の救急搬送人員では、「操作しながら」が 66 人と最も多く全体の約 38%を占めており、次いで「画面を見ながら」が 45 人、「通話しながら」が 24 人となっています（図 4）。

また、その内訳をみると、歩行中に「操作しながら」、「画面を見ながら」の受傷が多くなっていましたが、自転車で走行中の受傷も 36 人と全体の約 20.9%を占めていました（表 1）。

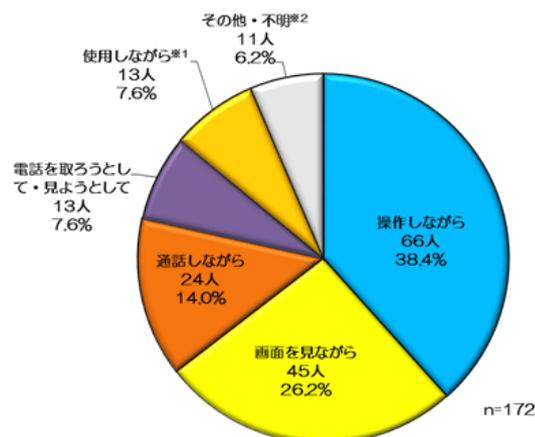


表1 発症時の動作別の救急搬送人員の内訳(平成23年～27年)

	操作しながら	画面を見ながら	通話しながら	電話を取ろうとして 電話を見ようとして	使用しながら	その他不明	総計
歩きながら	47	38	20	3	12	8	128
自転車で 走りながら	16	7	0	9	1	3	36
その他	3	0	4	1	0	0	8
総計	66	45	24	13	13	11	172

備考)単位:人

※1 「使用しながら」は、使用はしていたが、詳細不明なもの。
 ※2 相手がスマホ等を利用しながらの事故を含む。

図 4 発生時の動作別の救急搬送人員
(平成 23 年～27 年)

《出典：東京消防庁ホームページ》

3. 歩きスマホ防止対策

携帯電話各社では歩きスマホを防止するアプリを無料で配信しています。

○ドコモ 「歩きスマホ防止機能」

スマートフォンを見ながら歩くと、歩行中であることを検知し警告画面を表示する機能です。警告画面が表示されている間は、スマートフォンを操作することができなくなります。

○au 「歩きスマホ注意アプリ」

歩きスマホを検知すると、警告画面を表示してお知らせします。警告画面は歩行停止を検知すると、自動的に消えます。

○ソフトバンク 「STOP 歩きスマホ」

スマートフォンの画面を見ながら歩行すると、歩行中であることを検知し警告画面を表示します。警告画面が表示されている間は、スマートフォンの操作ができなくなり、歩行を中止すると再度操作が可能になります。

本メールに関して御質問、お問い合わせがある場合は下記まで御連絡ください。
【担当】 福井県安全環境部県民安全課 鈴木 電話：0776-20-0745（直通）